

(表紙)

計画名：上島町災害に強いまちづくり^{別添}(防災・安全)

都市防災事業計画

(生名地区他2地区 都市防災総合推進事業)

えひめけんかみじまちょう
愛媛県上島町

令和2年1月(当初)

令和2年4月(第1回変更)

令和2年12月(第2回変更)

令和3年12月(第3回変更)

（様式１）整備方針等

整備方針等

【防災まちづくりの現状及び課題】

（町内における防災上の現状及び課題）

上島町は、愛媛県北東部の広島県境に位置し、四方を海に囲まれ、北は広島県尾道市、南は今治市に接している。面積は3,038haで、有人6島、無人19島から構成されている。人口は6,796人（令和元年3月31日現在）で、その中でも高齢者の割合が45%を占めており、町の課題となっている。気候は、瀬戸内海特有の温暖で多照寡雨である。夏は涼しく、冬は暖かいため積雪はほとんどない。地形の特徴として、町内の有人島の大半には100～300m級の山がそびえていて、平地が少ない。山地の大半が急傾斜地となっている。

過去の災害においては、台風の被害が中心であり、地震関連の被害はほとんど見られていない。気候と地形の特性から、平成30年7月豪雨のような突発的な大雨には慣れておらず、そびえたつ山地から土砂災害を誘発する危険性が高い。また、南海トラフ地震においては、上島町では震度6強の強い揺れ、津波は最大高3.1mと想定されており、数少ない平地には住宅が密集しているので、家屋倒壊や土砂災害、浸水などで住民の生命・財産に甚大な被害が予想される。

先に触れた人口の問題も、町民のおよそ二人に一人は高齢者であるため、防災を考えるうえで重大な課題である。震災時はもとより、避難生活や復旧後のケアにも重点を置かなければ、二次災害につながりかねない。上島町において、全町民の1日分程度の備蓄品の購入や、防災倉庫を各島計18カ所に整備を行い、大災害への備えを進めているが、対策はいささか十分にはなっていない。町民の安全や生活を守るためにも模索が続いている。

町が抱える大きな課題の一つとして、生活用水の確保に係る問題がある。平成30年7月豪雨では、ライフラインである生活用水が絶たれて、供給力の脆弱さが浮き彫りとなった。本町は、町民の生活用水を賄いきれるようなダム保有は厳しい現状がある。そのため、生活に係る水は、広島県より海底送水管を敷設して供給している。したがって、広島県側のダムや取水場、送水管などの関連施設が被災することで、町内全域の飲用水の供給が止まってしまう。豪雨災害の際には、幸いなことに人的被害は発生しなかったものの、取水場が被災して町内ほぼ全域で12日間の断水となった。

近年の地球温暖化をはじめ、異常気象が話題となることも多い昨今である。実際の豪雨災害の経験を踏まえて、想定外な災害にも対応できる安定したライフラインの整備が求められている。

【整備方針】

（町内における防災上の課題解決のための整備方針）

本町は、平成16年に越智郡の近隣の島々で合併を行い一つの上島町となった。合併に伴い、住民の生命、身体及び財産を災害から保護することを目的とし、平成19年には「上島町地域防災計画」が策定された。

「上島町地域防災計画」においては、町民一人ひとりが「自助」のために行動し、地域では互いに助け合う「共助」に努めて、町が不足分の補完をして「公助」をすることが基本であるとされている。いつでも起こりうる災害による人的被害、経済的被害を軽減し、安全・安心を確保していくためには、町による防災対策だけでは十分ではない。町、住民のそれぞれが役割を理解して分担し、相互に連携と協力をしながら防災活動に取り組んでいくことが重要である。町内では、この計画に基づき個人や地域、団体等が日常的に減災のための行動と投資を行う「町民運動」が展開されている。地域に根差した自治体や自主防災組織の防災活動への促進と連携は必要不可欠である。町内全体では19の自主防災組織が存在し、町と自主防災組織はそれぞれの地域色に沿った連携を行っている。

町は防災の基本方針として、「減災」の考え方を推奨している。災害の発生を完全に防ぐことは不可能であることから、効果的な災害対策を広く講じることで町民ひとりひとりの自覚及び努力を促して、最小限の被害と迅速な回復を図るためである。災害の規模によっては、町のハード対策だけでは被害を抑えることができない場合もあることから、ソフト施策も可能な限りの整備が必要である。「減災」の考え方に基づき、ハード・ソフトを組み合わせた一体的な災害対策の整備をすすめている。

町が持つ「公助」と「減災」の役割の一つとして、被災時にも一定の生活水準を守り続ける必要がある。そのためにもライフラインの強靱化は迅速に整備していかなければならない。特に生命活動に必要な水の供給問題は、優先的に解決すべき急務である。ダムが無い島での安定した飲用水の確保は、貯水設備や経済的な面など多数の問題が考えられる。そこで、段階的に飲用水の確保にむけた整備を行うことで調整を図るものとする。まずは、本計画において耐震性貯水槽を設置することにより、生名地区・弓削地区・佐島地区住民の1週間分の飲用水備蓄に努めたい。

(様式2) 計画事業一覧

計画事業一覧						
都道府県名	愛媛県	市町村名	上島町	計画期間	令和2年 ～ 令和4年	
担当部局名	消防本部 消防防災課 危機管理係	担当者	(正) 壺内 晶 (副) 森本 和義 (副) 村上 英則	連絡先	TEL 0897-77-4118 FAX 0897-77-4111 e-mail shobo-bosai@town.kamijima.lg.jp	

【都市防災総合推進事業】

事業区分		事業主体	事業地区名	地区面積 (ha)	都市防災総合推進事業 における事業期間		国費率	交付対象事業費(予定)額 (百万円)	
					開始年度	終了年度		(参考)事業費	(参考)国費
地区公共 施設等整備	地区緊急 避難施設	上島町	生名	367	R2	R2	1/2	30.0	15.0
地区公共 施設等整備	地区緊急 避難施設	上島町	佐島	268	R3	R3	1/2	32.0	16.0
地区公共 施設等整備	地区緊急 避難施設	上島町	弓削	868	R4	R4	1/2	32.0	16.0
合計								94.0	47.0

注) 該当のないメニューについては行を削除する等して、なるべく一枚に収まるよう作成してください。

注) 複合施設整備については、設計完了前に補助対象範囲を協議すること。

(様式3) 関連事業

事業区分	事業主体	事業地区名	事業規模(面積、延長、幅員等)	総事業費 (国費ベース)	事業期間		事業実施状況	重点密集 市街地の有無
					開始年度	終了年度		

注) 総事業費について百万円単位。

(様式 4) 年度別事業計画 1 【参考】

事業区分		事業主体	事業地区名	整備内容	重点密集市街地	国費率	[上段：当初(変更前)、下段：変更後] 【百万円単位】 交付対象事業費(予定)額 [国費ベース]							
							令和2年度以前	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度以降	計
地区公共施設等整備	地区緊急避難施設	上島町	生名	耐震性貯水槽＝1基	×	1/2		16.0 15.0						16.0 15.0
	地区緊急避難施設	上島町	佐島	耐震性貯水槽＝1基	×	1/2			16.0 16.0					16.0 16.0
	地区緊急避難施設	上島町	弓削	耐震性貯水槽＝1基	×	1/2				16.0 16.0				16.0 16.0
合計							0.0	16.0	16.0	16.0	0.0	0.0	0.0	48.0
							0.0	15.0	16.0	16.0	0.0	0.0	0.0	47.0

(様式5) 年度別事業計画【参考】

○補助額の内訳

[上段:当初(変更前)、下段:変更後]【百万円単位】

事業地区名	整備内容	整備の内訳	国費率	令和元年度以前	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度以降	計
生名地区	地区公共施設等整備 地区緊急避難施設 耐震性貯水槽1箇所	調査設計	1/2								0
											0
		工事	1/2		16						16
					15						15
佐島地区	地区公共施設等整備 地区緊急避難施設 耐震性貯水槽1箇所	用地	1/3								0
											0
		調査設計	1/2								0
											0
弓削地区	地区公共施設等整備 地区緊急避難施設 耐震性貯水槽1箇所	工事	1/2			16					16
						16					16
		用地	1/3								0
											0
		調査設計	1/2								0
											0
		工事	1/2				16				16
							16				16
		用地	1/3								0
											0
		合計		0	16	16	16	0	0	0	48
				0	15	16	16	0	0	0	47

(様式6) 全体現況図 等

地区名	愛媛県上島町	面積	3,038ha	区域	上島町全域
-----	--------	----	---------	----	-------

耐震性貯水槽(対象地区：①生名地区(恵生公営住宅B団地駐車場)、②佐島地区(佐島体育館グランド)、③弓削地区(弓削小学校駐車場))

整備内容：40トン(40,000ℓ)×3基

目的：町内の生名地区他2地区へ耐震性貯水槽を整備することにより、災害時における1週間分の飲用水備蓄を行うもの。



①生名地区(恵生公営住宅B団地駐車場)



②佐島地区(佐島体育館グランド)



③弓削地区(弓削小学校駐車場)

<各施設完成イメージ図>



対象地域	人口(人)	目標水量(ℓ)	設置個所	概要	規模	施行年度	概算事業費	全体事業費
生名地区	1,514	96,579	恵生公営住宅B団地駐車場	地上式	40トン×1基	R2年度	30.0百万円	94.0百万円
佐島地区	478		佐島体育館グランド		40トン×1基	R3年度	32.0百万円	
弓削地区	2,607		弓削小学校駐車場		40トン×1基	R4年度	32.0百万円	